

文化財通信特別編 その百七拾式

【特集】北条早雲と葦山

北条早雲の生涯に迫る

伊豆葦山に拠点を構えた戦国武将・北条早雲。彼は一介の素浪人から戦国大名へと成り上がった「下剋上」代表とされて...

室町幕府の名門 伊勢家に生まれる

早雲は、備中国荏原荘(現・岡山県井原市)または京都の生まれといわれますが、正確な場所は不明です。

伝えられていることから、生誕年は永享4年(1432)とも康正2年(1456)ともいわれ、「大器晩成の典型」や「若きエリート」などさまざまな見解がなされています。

そんな早雲ですが、出自は室町幕府奉公衆の名門・伊勢家であり、応仁元年(1467)頃京都に上京して、足利義視に仕えたとされます。

す。中でも、今川家の親戚筋にあたる小鹿範満は、これを期に本格的に今川家の家督を狙ってきました。

堀越御所攻め

う。この頃、今川家における活躍が認められ、興国寺城とその周辺を領地として与えられています。

明応2年(1493)、管領・細川政元が堀越公方足利政知と共謀して10代目将軍・足利義材を追放し、11代目将軍に足利義澄(政知の息子)を擁立するクーデターを計画します。

早雲は、康正2年(1456)誕生説に基づくと20歳そこそこの若者。関東地方の武家の介入などで一筋縄ではない今川家の跡目争いを収めるのは非常に労力のあることであり、苦悩も多かったことでしょう。

「明応の政変」です。しかしながら、実行前に政知が死亡したため政元主導で実行。計画通り将軍の交代を行いました。死亡した政知の跡を継ぐべく息子の足利茶々丸が武力蜂起し、堀越御所は乗っ取られてしまします。

これを危険視した室町幕府の命に

志仁の乱と伊勢家

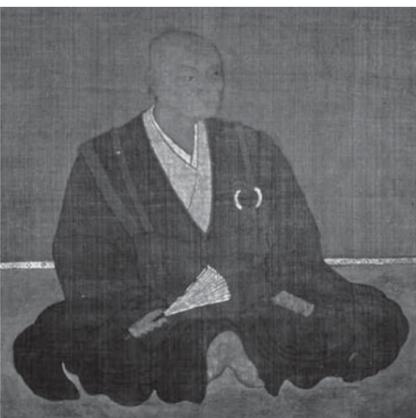
当時の京都では、幕府内の権力者争いが激化。幕府内の武家が、山名宗全率いる西軍と細川勝元率いる東軍に分かれて「志仁の乱」に発展します。

合戦が長引くにつれ、武名を上げるため、また幕府内の権力者となつた。また幕府内の権力者となつた。また幕府内の権力者となつた。また幕府内の権力者となつた。

晩年の早雲

より、早雲は堀越御所を攻撃。茶々丸を堀越御所から追い出すことに成功します。逃げ延びた茶々丸はこの後数年間、伊豆半島や関東地方を転々としながら早雲と激しい合戦を繰り広げます。

明応7年(1498)、ついに茶々丸を破った早雲は伊豆半島を事実上平定し、室町幕府の反抗勢力の多い相模国(現・神奈川県)へと本格的に侵攻を始めます。三浦氏をはじめとした勢力の抵抗に苦戦しつつも、永正13年(1516)に相模を平定します。こうして、早雲は伊豆と相模の2カ国を有する戦国大名へとなっていくのです。



北条早雲画像 (神奈川県箱根町 早雲寺 所蔵) (画像提供: 箱根町立郷土資料館)

は修善寺(現:伊豆市)で茶毘(火葬)に付され、その2年後、早雲寺(現:神奈川県箱根町)に葬られたとされています。

葦山城を守るために

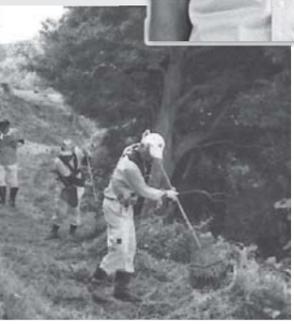
葦山城を復元する会では、葦山城跡本城部(龍城山)の草刈りや清掃といった環境整備を定期的に行っています。また、多くの皆さんに葦山城跡の魅力を知ってもらえるよう勉強したり、PRをしたりするなど、日々活動に励んでいます。

今年北条早雲没後500年ということもあり、その終生の居城である葦山城跡への注目が高まってきていると感じています。より多くの皆さんが葦山城跡を訪れることで、市全体の活性化につながるようこれからも積極的な活動をしていきたいと思ひます。

NPO 法人 葦山城を復元する会 会長 山下捷雄



葦山城環境整備活動の様子



(写真提供: 葦山城を復元する会)

北条早雲画像 (岡山県井原市 長谷山法泉寺 所蔵) (画像提供: 井原市教育委員会) ※法泉寺には永享4年(1432)生誕と伝わる





# 今、よみがえる北条早雲

終生を葦山で過ごし、人々の命と生活を守ることに尽力した早雲の遺徳をしのび、供養することを目的に、「北条早雲公没後500年祭」を開催します。

いよいよ開催！  
北条早雲公没後500年祭  
11月1日(金) 11月2日(土)

▼早雲歴史ウォーク

13時30分～15時30分(集合13時15分)  
江川邸～葦山城跡周辺

▼稚児行列

10時出発 江川邸～城池親水公園

▼北条早雲公没後500年祭法要

11時～11時45分 城池親水公園野外ステージ  
※法要終了後、もちまき、天城連峰太鼓  
芸妓踊りなどお楽しみがあります。

▼早雲関連映像上映

16時～17時30分 葦山時代劇場映像ホール

▼時を超える語りの会

18時30分～20時30分

葦山時代劇場大ホール

①ポスター(絵と書)表彰式  
(左ページ参照)

②早雲研究発表

(葦山高校文系探究コース)

③落語(立川志らべ氏)

④ひとり語り(大塚良重氏)



立川志らべ氏



大塚良重氏

▼記念シンポジウム

15時25分～16時30分

司会/小和田哲男氏

パネラー/北条五代関連市町首長



小和田哲男氏

▼基調講演「北条早雲公の虚像と実像」

14時～15時10分 葦山時代劇場大ホール  
小和田哲男氏(静岡大学名誉教授)

絵/秋津美羽さん(葦山高校美術部)  
書/外山祐羽さん



# ごめんね早雲 そしてありがとう早雲

「北条早雲公没後500年祭」開催に先駆け、「北条早雲公没後500年祭実行委員会」の皆さんに、意気込みや思いを聞きました。

## 北条早雲公没後 500 年祭をお楽しみに！

本年は、葦山城を終生の居城とした早雲公が没してから500年にあたる年です。実行委員会では、昨年11月、葦山城本丸(龍城山)で、「北条早雲公没後500年忌法要」を行いました。そして本年11月、いよいよ「北条早雲公没後500年祭」を開催します。

催し物は、「早雲公の人物像をいかに知ってもらおうか」に主眼を置き、決定しました。11月1日はいすのくに大使による「落語」と「ひとり語り」を、11月2日は法要・稚児行列に始まり、午後にはより学術的に詳しく学ぶための小和田哲男氏による講演会「北条早雲公の虚像と実像」をそれぞれ行うなど、これまで江川坦庵公の影に隠されていた北条早雲公を前面に押し出した内容となっています。また、仏教会中心に行う稚児行列には市内の児童・園児たちも参加し、イベントを盛り上げてくれます。

市民の皆さん、お誘いあわせのうえ、ぜひ足をお運びください。

北条早雲公没後 500 年祭実行委員会  
会長 河野真人



## 郷土の誇りを伝えられる人に

源頼朝公が源平の争いで敗れて蛭ヶ小島に流され、その後市内で平家追討の旗揚げをして鎌倉幕府を興し、武家政権が始まりました。

北条早雲公が堀越御所を攻撃し、葦山城を築き、戦国時代における関東の覇者となりました。

江川坦庵公が蘭学により外国情報を入手し、日本の近代が胎動を始めました。

このように、伊豆の歴史をたどると日本の歴史が見えてきます。伊豆の国市は、歴史を検証する遺跡の宝庫です。皆さんには、このイベントをきっかけに、多くの歴史が残る地域に住むことを誇りに思える一人、それを伝える一人になってほしいと思います。

実行委員会  
副会長 橋本敬之



## ボランティアに応募して

葦山高校で行われた志龍塾で、小和田哲男さんによる北条早雲公についての講演がありました。ほとんど知識がありませんでしたが、小和田さんに取材にうかがいました。その中で少しずつ学び、「葦山新聞」で早雲公についての記事を書いています。私は日本史があまり得意ではありません。そこで、身近なことから日本史に興味を持つきっかけになればと思い、ボランティアに応募しました。

イベントを通して、日本中に早雲公の魅力が伝わってほしいです。まずは早雲公や伊豆の国市が愛されるイベントとするため、ボランティアの一員として支えていきたいです。

ボランティアスタッフ  
葦山高校2年 吉村彩

